

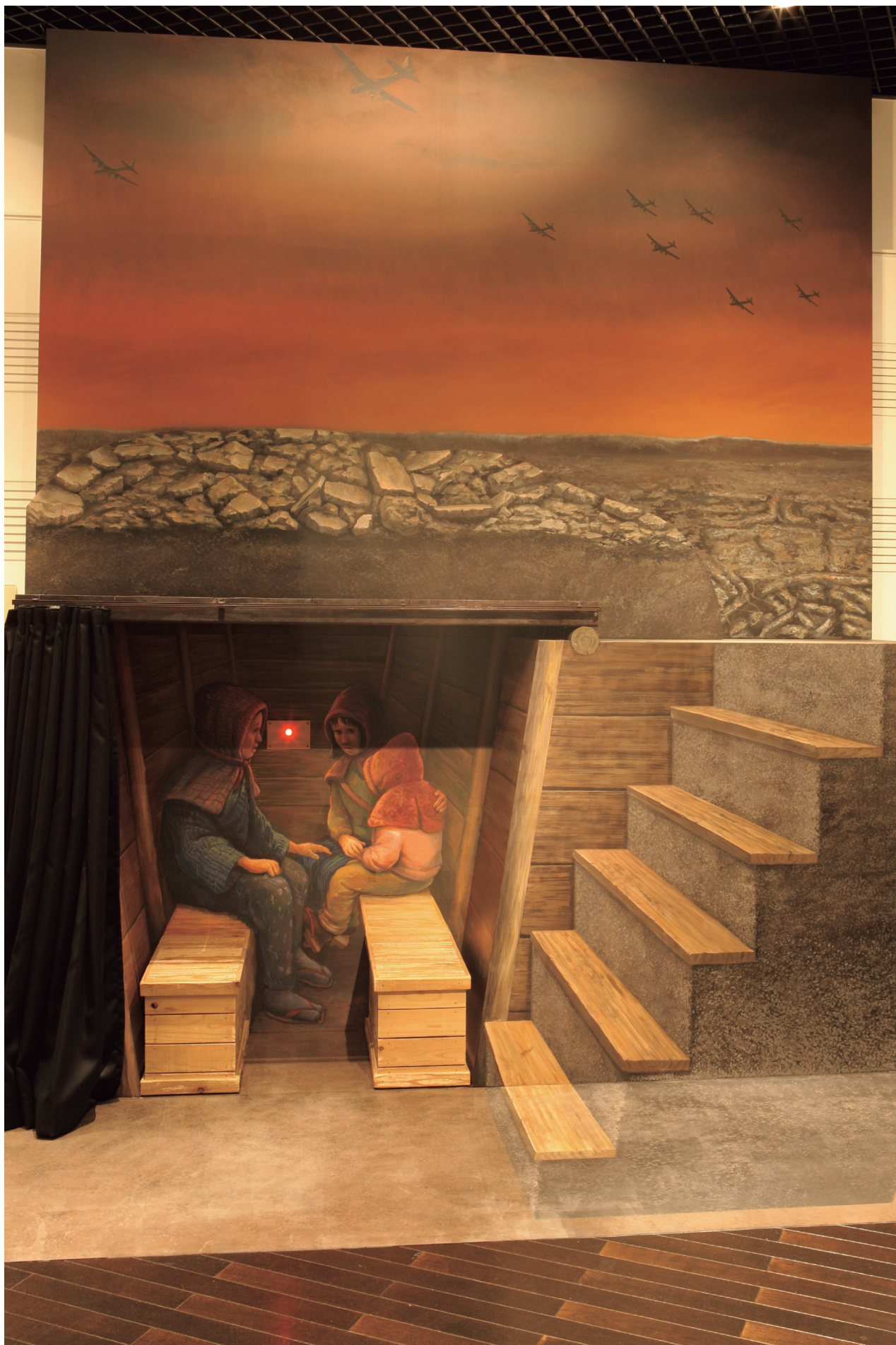
# 昭和館館報

平成30年度

口 絵			
ごあいさつ	1	(4) SNSの活用	18
フロア構成	2	(5) Wi-Fi提供	18
年間主要行事	3	2 オーラルヒストリーの制作	18
平成30年度事業概要	4	IV 啓発広報等事業	20
I 展示事業	4	1 広報活動	20
1 常設展示	4	(1) 広報資料の作成及び発送	20
(1) 常設展示の概要	4	(2) 広報と掲示及び掲載	20
(2) 展示資料の入れ替え	4	(3) 昭和館だよりの発行	20
2 巡回特別企画展の開催	4	(4) 戦中・戦後の労苦を伝える語り部育成事業	21
(1) 第33回巡回特別企画展	5	(5) こども霞が関見学デー	21
「戦中・戦後の暮らし 群馬展」	5	(6) 第17回昭和館見学作文コンクール	22
(2) 第34回巡回特別企画展	5	(7) 第11回昭和館中学生・高校生ポスターコンクール	22
「戦中・戦後の暮らし 香川展」	5	2 「昭和の暮らし研究」の刊行	23
3 貸出キット	6	3 展示資料の貸出	24
4 紙芝居定期上演会	7	4 昭和館運営専門委員会の開催	24
5 教員のための博物館体験	7	5 昭和館運営有識者会議の開催	25
6 実物資料の収集と保存	8	6 インターンシップ	25
(1) 実物資料の収集	8	7 関係施設等連携会議の開催等	25
(2) 実物資料の保存と補修	8	(1) 関係施設等連携会議の開催	25
II 図書映像資料等閲覧事業	9	(2) 3館連携「夏休み3館めぐりスタンプラリー」実施	25
1 図書文献関係	9	(3) 移動教室「南洋の島々を描く 二人の軍人とそのまなざし」を開催	26
(1) 運用管理	9	(4) 巡回特別企画展の相互協力	26
① 閲覧室及び書庫の管理	9	V 特別企画展等の開催及び概要	27
② レファレンス・サービス (参考調査業務)	9	1 特別企画展	
③ 利用ガイドの発行	9	「昭和館で学ぶ『この世界の片隅に』」	27
④ 展示関連図書の公開と参考図書 リストの配布、読書案内	9	2 昭和館開館20周年記念特別企画展	
⑤ ホームページ	10	「日本のオリンピック・パラリンピック ～大会を支えた人々～」	28
⑥ 蔵書点検	10	3 特別展示	
⑦ 利用状況	11	「天皇家下御在位三十年慶祝展示・映像紹介」	30
(2) データ管理	12	4 写真展	
① 収蔵図書のデータ管理	12	「草の根の人びとと共に —GHQ婦人問題担当官がみた日本—」	31
② 目次データ入力	12	5 昭和館開館20周年記念写真展	
(3) 保存管理	12	「昭和に出会う旅—47都道府県をめぐって—」	32
(4) 業務研修	12	6 資料公開コーナー	32
2 映像・音響関係	12	参考	
3 ニュースシアター	13	1 昭和館入場者状況の推移(平成11年度～30年度)	33
4 収蔵資料	13	2 平成30年度利用者実績	34
(1) 図書資料の収蔵状況	13	3 常設展示室入場者数	34
(2) 映像・音響資料の収蔵状況	14	4 来館団体御芳名	35
III 関連情報提供事業	16	5 第17回昭和館見学作文コンクール 厚生労働大臣賞受賞作品	36
1 運用管理	16	6 第11回昭和館中学生・高校生ポスター コンクール入賞作品の紹介	37
(1) システム運用管理	16	7 施設概要	38
(2) データベース運用管理	17	8 平成30年度寄贈者御芳名	40
(3) ホームページ運用管理	17		

口 絵  
外観写真





7階 常設展示室「銃後の備えと空襲」 防空壕体験コーナー



6階 常設展示室「子どもたちの戦後」 青空教室（制作：安部朱美）



6階 常設展示室「体験ひろば」 着てみよう！



5階 映像・音響室



4階 図書室



1階 昭和館懐かしのニュースシアター



1階 ニュースシアターにて  
紙芝居定期上演会



特別企画展

「昭和館で学ぶ『この世界の片隅に』」  
(平成30年7月21日～9月9日)



開館20周年記念特別企画展

「日本のオリンピック・パラリンピック ～大会を支えた人々～」  
(平成31年3月16日～令和元年5月6日)



巡回特別企画展「戦中・戦後の暮らし 群馬展」  
前橋プラザ元気21 にぎわいホール  
(平成30年10月12日～10月23日)



巡回特別企画展「戦中・戦後の暮らし 香川展」  
市民交流プラザIKODE瓦町(瓦町FLAG 8F)大会議室1・2  
(平成30年11月10日～11月23日)



## ごあいさつ



昭和館は、国民が経験した戦中・戦後の生活に係る歴史的資料・情報を収集、保存、展示して、国民生活上の労苦を次世代の人々に伝える国立の施設として平成11年3月に開館しました。小・中学生の来館者は年々増加し、総入館者数も590万人（平成31年3月末現在）を超えました。

平成30年度は、夏の特別企画展「昭和館で学ぶ『この世界の片隅に』」の開催をはじめ、常設展示室、映像音響室、図書室、ニュースシアター、資料公開コーナーでの事業の実施のほか、春の特別企画展「日本のオリンピック・パラリンピック～大会を支えた人々～」、特別展示「天皇陛下御在位三十年慶祝展示・映像紹介」、2階ひろばでの秋と春の写真展、紙芝居の定期上演会、こども霞が関見学デー、小・中学生作文コンクール、中学生・高校生ポスターコンクールの実施、紀要「昭和のくらし研究」発刊、オーラルヒストリー（証言映像）制作、貸出キットの充実などに取り組んで参りました。

巡回特別企画展では、11月に開催した香川展において、同時開催された平和祈念展示資料館の企画展との連携等により、1万1千人を超える入場者数となり、これまで34回開催した中で2位となったほか、10月に開催した群馬展を加えた年度の入場者数でも2万人を超える成果をあげることができ、平成30年度の入館者数は、41万7,355人となり、平成27年度(約52万5千人)、平成29年度(約46万2千人)に次ぐ、3番目に多い入館者数となりました。

また、戦中・戦後の労苦を伝える語り部育成事業では平成30年度に三期生7人を迎えて、一期生(11人)、二期生(8人)とともに計26人に対する研修をそれぞれ3年計画で実施しています。

これもひとえに関係各位の御支援・御協力の賜物であり、心より御礼申し上げます。ここに、平成30年度の活動状況を取りまとめましたので御高覧いただければ幸いです。

さらに、本年は、開館20周年の節目の年となることから、春の特別企画展をはじめ開館20周年記念事業として様々な工夫を凝らして取り組んでいます。

令和元年を迎え、昭和は遠くなりつつありますが、当館が果たすべき使命は重みを増していると受けとめており、今後とも次の世代、特に若い世代に戦中・戦後の労苦を継承していくため、各種資料の収集充実に努め、様々な観点からの企画展の開催と種々な情報提供等が出来るよう、魅力ある運営に励んで参りますので、一層の御支援、御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

令和元年7月

昭和館  
館長 羽毛田 信吾

## フロア構成

常設展示室（入口）

7階

常設展示室（出口）

6階

映像・音響室

5階

図書室

4階

研修室・会議室

3階

広場

2階

ニュースシアター・資料公開コーナー

1階

資料収蔵室

地下1階

設備管理室

地下2階

## 年間主要行事

平成30年	
3月10日～5月6日	特別企画展を開催 「希望を追いかけて～フロリダ州立大学所蔵写真展～」
3月17日～5月6日	写真展を開催 「女学生たちの青春～戦前から戦中、そして戦後へ～」
4月29日	「昭和の日」記念イベント
5月26日～	紙芝居定期上演会（奇数月第4土曜日、 1月は2月の第1土曜日に変更）
6月25日～6月27日	常設展示室の資料交換（休室）
6月28日	平成30年度第1回昭和館運営専門委員会を開催
7月14日～9月2日	「夏休み3館めぐりスタンプラリー」
7月21日～9月9日	特別企画展を開催 「昭和館で学ぶ『この世界の片隅に』」
7月26日	教員のための博物館体験
8月1日～8月2日	こども霞が関見学デー（厚生労働省の会場）
8月15日	「戦没者を追悼し平和を祈念する日」
8月8日、8月22日	教員のための博物館体験
8月23日～8月25日	インターンシップ 東洋高等学校
9月15日～12月16日	写真展を開催 「草の根の人びとと共に —GHQ 婦人問題担当官がみた日本—」
9月22日	戦中・戦後の労苦を伝える語り部育成事業第3期生開校式
10月12日～10月23日	第33回巡回特別企画展を開催 「戦中・戦後の暮らし 群馬展」
11月10日～11月23日	第34回巡回特別企画展を開催 「戦中・戦後の暮らし 香川展」
平成31年	
1月26日～1月28日	常設展示室の資料交換を実施（休室） 展示アプリガイド導入
1月27日～12月22日	「昭和館開館20周年スタンプラリー」
2月12日～2月16日	映像・音響室の資料整理を実施（休室）
2月13日	平成30年度第2回昭和館運営専門委員会を開催
2月21日～3月3日	特別展示を開催 「天皇陛下御在位三十年慶祝展示・映像紹介」 「天皇陛下御在位三十年記念式典」記念イベント
2月24日	
3月1日	紀要「昭和の暮らし研究」（第17号）を刊行
3月6日～3月19日	図書室の蔵書点検・資料整理を実施（休室）
3月8日	第19回昭和館運営有識者会議を開催
3月16日～令和元年5月6日	特別企画展を開催 「日本のパラリンピック・オリンピック ～大会を支えた人々～」
3月16日～令和元年5月6日	写真展を開催 「昭和に出会う旅—47都道府県をめぐって—」

# 平成30年度事業概要

## I 展示事業

展示事業では、戦中・戦後の国民生活上の労苦を伝える実物資料等の常設展示を行うとともに、関連する資料の収集、保存、管理を行っている。

また、特別企画展や巡回特別企画展等を開催した。  
(「V 特別企画展等の開催及び概要」参照)

### 1 常設展示

#### (1) 常設展示の概要

7階及び6階の常設展示室においては、多くの国民が経験した戦中・戦後の国民生活上の労苦を後世に伝えるための展示を行っている。

7階では、戦争が激しくなる少し前の昭和10年(1935)頃から、昭和20年(1945)8月15日までの戦中の暮らしを、6階では終戦から『経済白書』に「もはや戦後ではない」と記された昭和30年(1955)頃までの戦後の暮らしを、それぞれ多くの実物資料とともに写真・映像資料、図解資料等を併せて展示し紹介している。

#### (2) 展示資料の入れ替え

長期展示による資料の劣化を避け、また、できるだけ多くの方々からの寄贈資料を紹介するため例年2回、1月と6月に展示資料の入れ替えを行っている。

平成30年度は平成30年6月25日(月)から27日(水)と平成31年1月26日(土)から28日(月)に実施した。

平成31年1月の資料交換時に、展示ガイドアプリ「ポケット学芸員」を導入した。

### 2 巡回特別企画展の開催

遠方に在住する方々の便宜を考慮し、さらに幅広い広報活動の一環として、年2回の巡回特別企画展を開催している。

平成30年度は、次の通り実施した。

(1) 第33回巡回特別企画展

「戦中・戦後の暮らし 群馬展」

開催期間 平成30年10月12日(金)～10月23日(火)

会場 前橋プラザ元気21 にぎわいホール

主催 昭和館

協賛 群馬県遺族の会および日本遺族会第2ブロック

後援 群馬県 群馬県教育委員会 前橋市 前橋市教育委員会

上毛新聞社 朝日新聞社前橋総局 毎日新聞前橋支局

読売新聞前橋支局 産経新聞前橋支局

東京新聞前橋支局 NHK前橋放送局 群馬テレビ

FM GUNMA まえばしCITYエフエム

内容 群馬県関連の実物資料を中心に、戦中・戦後の厳しい時代を生き抜いた人々が綴った手記や、その姿を記録した写真など約290点を展示し、当時の世相や苦難の多かったくらしを紹介した。群馬県の戦中・戦後にかけてのポスター、群馬県への集団学童疎開についての特設コーナーを設置した他、終戦直後の前橋市内を撮影した映像等も紹介し、群馬県の特色が表れる展示内容となった。

入場者数 9,069人(約756人/1日)

(2) 第34回巡回特別企画展

「戦中・戦後の暮らし 香川展」

開催期間 平成30年11月10日(土)～11月23日(金)

会場 市民交流プラザIKODE瓦町(瓦町FLAG 8F)  
大会議室1・2

主催 昭和館

協賛 香川県遺族連合会および日本遺族会第4ブロック

後援 香川県 香川県教育委員会 高松市 高松市教育委員会

四国新聞社 読売新聞高松総局 朝日新聞高松総局

毎日新聞高松支局 産経新聞社高松支局 NHK高松放

送局 RNC西日本放送 RSK山陽放送 KSB瀬戸

内海放送 TSCテレビせとうち CMSケーブルメデ

ィア四国 FM香川 FM815

内容 香川県関連の実物資料を中心に、戦中・戦後の厳しい時代を生き抜いた人々が綴った手記や、その姿を記録した写真など、県内の資料館等から借用した資料も合わせ約300点を展示し、当時の世相や苦難の多かったくらしを紹介し

た。金刀比羅宮や『二十四の瞳』等、香川県ゆかりの特設コーナーを設置し、香川県の特色が表れる展示内容となった。

同時開催 平和祈念展示資料館「平和祈念展 in 高松」

入場者数 11,386人(約813人/1日)

### 巡回特別企画展



群馬展



香川展

### 3 貸出キット

平成30年度の貸出状況は、次の通りである。

#### <貸出先> (貸出実施順)

(学校) 17校

富士見市立本郷中学校/上野原市立上野原西中学校/越谷市立千間台小学校/大和市立渋谷小学校/枚方市立長尾小学校/小平市立小平第一小学校/丹波山村立丹波小学校/世田谷区立中里小学校/栃木市立千塚小学校/中野区立新井小学校/香取市立八都小学校/横浜市立上飯田小学校/鎌倉市立山崎小学校/横浜市立新田小学校/北区立袋小学校/鷗友学園女子中学高等学校/東京女学館小学校

(地方自治体) 15自治体

横須賀市役所市民部市民生活課/千葉県匝瑳市役所総務課/川口市役所総務部総務課/笛吹市教育委員会/北区役所総務部総務課/八王子市総務部総務課/上尾市市民協働推進課/あきる野市役所総務部総務課/台東区役所総務部/東村山市役所市民部市民相談・交流課/茨城県保健福祉部長寿福祉課/洞爺湖町総務課/「朝霞・平和のための戦争展」実行委員会/伊奈町秘書広報課/千代田区国際平和・男女平等人権課

(一般団体) 12団体

綾瀬市遺族会/中川村図書館/一般財団法人徳島県遺族会/生活協同組合ユーコープ県央3エリア会/株式会社アステム/愛川町遺族会/広島県庄原市戦没者遺族会/公益財団法人高知県遺族会/クラーチ・フィエラ鷲ノ宮/宇部地方史研究会/生活協同組合コープみらい東京都本部/NTT労働組合東京総支部東エリア

#### 4 紙芝居定期上演会

当館が所蔵する紙芝居とワークショップの要素を取り入れた体験型の上映会を、紙芝居師により実施した。

なお、入場者の状況は以下の通りである。

上演月	入場者
平成30年 5月26日	89人
7月28日	87人
9月22日	110人
11月24日	93人
平成31年 2月 2日	98人
3月24日	107人
合計	584人

#### 5 教員のための博物館体験

学校と博物館の連携を図ることを目的に、小中高校の教職員を対象とした博物館体験の日を実施した。

開催日 : 平成30年7月26日(木) 10:00~12:30  
8月 8日(水) 10:00~12:30  
8月22日(水) 10:00~12:30

- 内 容 : ① 学芸員による展示趣旨・方法の解説  
 ② 収蔵庫等のバックヤード見学  
 ③ 昭和館ウェブサイト紹介  
 ④ 貸出キットの紹介  
 ⑤ 意見交換

参加者 : 7月26日(木) 小学校教諭1名、中学校教諭1名  
 特別支援学校教諭1名 計 3名  
 8月 8日(水) 小学校教諭3名、中学校教諭2名  
 高等学校教諭1名、養護学校教諭1名  
 大学教員 1名 計 8名  
 8月22日(水) 小学校教諭1名、中学校教諭1名、  
 高等学校教諭1名 計 3名

## 6 実物資料の収集と保存

### (1) 実物資料の収集

平成30年度は、「668点の家族宛軍事郵便」、「脱脂粉乳容器」等2,515点の寄贈を受け、「授産所で遺家族が製作した衣服」、「オリンピックヘルシンキ大会中止になる前に製作された大会ポスター」等471点の購入を行った。

収蔵資料数は次表の通りである。(平成31年3月末現在)

寄 贈 資 料	43,322点
購 入 資 料	14,066点
厚生労働省からの無償貸付資料	3,243点
寄 託 資 料	485点
合 計	61,116点

### (2) 実物資料の保存と補修

平成30年度末までに収集した実物資料は、全て燻蒸処理を行い、整理、分類した上、地下1階の資料収蔵室で保管を行っている。



## Ⅱ 図書映像資料等閲覧事業

### 1 図書文献関係

#### (1) 運用管理

##### ① 閲覧室及び書庫の管理

4階図書室では、収集した戦中・戦後の国民生活に関する文献や戦争に関する基本図書・雑誌・地図等閲覧に供している。

閲覧室には座席30席のほか、所蔵資料や『戦史叢書・陸海軍部隊略歴検索システム』等のデジタル情報及び『文藝春秋』等の雑誌データベースが閲覧できる端末を6台設置し、タッチパネルとキーボードの両方で使えるようにしている。

また、国内の類似施設情報が閲覧できる端末1台を設置し、来館者の利用に供している。

利用頻度が高い基本図書や総合的な内容をもつ図書を中心に開架図書とし、利用状況に応じて随時調整している。

閉架図書は比較的利用頻度の高いものは4階書庫、その他は地下書庫に収蔵し、劣化の激しい図書は保管庫で別置保存している。

閲覧室入口付近の展示ケースでは寄贈図書の一部を随時紹介している。

##### ② レファレンス・サービス（参考調査業務）

平成30年度のレファレンス・サービスは230件で、特に8月の夏休み期間に多かった。レファレンスの内容は書籍の所蔵確認だけでなく、考証に関するものが多かった。

レファレンスの内容は随時蓄積し、利用ガイドなどに反映させるよう努めている。

##### ③ 利用ガイドの発行

レファレンスの内容に基づいて利用・検索の方法や、所蔵図書を紹介する「ぶらりらいぶらりい」を毎月発行し希望者に配布している。

##### ④ 展示関連図書の公開と参考図書リストの配布、読書案内

来館者が特別企画展などの展示内容についてより一層理解が深められるよう、展示テーマに即した図書・雑誌を閲覧室内に展示し、気軽に手にして閲覧できるコーナーを設けている。

昨年度からの継続企画コーナー「あなたの出身地は？昭和館で見られる47都道府県の資料」では、2カ月ごとに資料の入れ替えを行っているが、今年度は巡回特別企画展を開催した香川県、群馬県を含め6県の関連資料を紹介した。

継続企画以外でも、大人から子どもまでを対象に話題になっている事柄に関連する図書などを紹介した。今年度は、ニュース関連でソロモン諸島の海底で発見された戦艦「比叡」、学徒出陣75年等、逝去した人物（かこさとし、日高六郎、桂歌丸、浅利慶太、長部日出雄、梅原猛、ドナルド・キーン等、計37名）、テレビや映画関連では、NHK連続テレビ小説「まんぷく」、NHK大河ドラマ「いだてん」、映画「あの日のオルガン」に関する資料などを取り上げた。

また、特別企画展及び資料公開コーナーの展示内容など連動した図書・雑誌の公開も行っており、「この世界の片隅に」「オリンピック・パラリンピック」「旅と観光」の関連資料を紹介した。

平成30年7月21日（土）から9月9日（日）まで、小学校高学年から中学生を対象に、「夏休みの宿題・研究用図書リスト」を作成して希望者に配布するとともに、ホームページにも同リストを掲載し、利用の便を図った。

また、同期間、小学生を対象にした「夏休みワークシート」も配布し、調べ学習の実践を推進した。今年度新たに作成したテーマは「この世界の片隅に」で、前年度までに作成した「学校生活」「学童疎開」「空襲」「昭和20年終戦の年」「くらしの道具」「動物たちと戦争」とあわせて配布した。

平成31年2月には、平和祈念展示資料館が九段生涯学習館にて開催した「南洋の島々を描く」に関連して、中国・東南アジア関係資料のコーナーを設けるなど、館内外との協力・連携をはかった。

#### ⑤ ホームページ

図書室の紹介ページでは、開架図書を書架ごとに紹介するとともに、閲覧室内で紹介している資料の入れ替えごとに掲載し利用を促している。

「ぶらりらいぶらりい」を定期的に更新しているほか、「本に関するお問い合わせ」では、利用者からのレファレンス等を随時受け付けた。

資料募集のお知らせを掲載し、広く資料の寄贈を呼びかけている。

蔵書検索ページは、毎月データを更新し、館外からも検索できるようにしている。蔵書検索は、横断検索もできるほか、タイトルや著者名、フリーワードでの検索などさまざまな方面からできるようにしている。あわせて、過去のレファレンス事例もキーワードで検索して見ることができるようになっている。

#### ⑥ 蔵書点検

平成31年3月6日（水）から3月19日（火）までの14日間、図書室を休室にし、蔵書点検を実施した。開架図書及び4階書庫と地下書庫の和雑誌を重点的に点検し、破損が著しい図書の修理や製本を行った。

また、図書・雑誌の和書資料の増加にともない、蔵書の移動を行った。

⑦ 利用状況

平成30年度 図書室入室者及び閉架資料利用状況（月別）

年月	入室者数	閉架資料	
		利用者数	利用冊数
平成30年4月	1, 161	168	635
5月	1, 372	185	705
6月	925	172	596
7月	1, 548	164	597
8月	2, 795	215	1, 022
9月	1, 269	193	1, 005
10月	909	150	634
11月	1, 645	141	622
12月	2, 000	142	675
平成31年1月	1, 585	113	571
2月	1, 714	94	417
3月	696	84	334
合計	17, 619	1, 821	7, 813

平成30年度 閉架資料の利用冊数（分野別）

分野	図書	雑誌
総記	115	1, 448
哲学	42	6
歴史	1, 072	241
社会科学	1, 612	531
自然科学	39	26
技術・工学・工業	244	127
産業	122	17
芸術	199	970
言語	23	0
文学	912	30
合計	4, 380	3, 396

- ・ 図書の利用内訳は、「社会科学」では部隊史等を含む国防・軍事関係が多く、「文学」では体験記録・手記の利用が多かった。
- ・ 雑誌の「総記」には、週刊誌及び娯楽誌など一般雑誌が含まれる。
- ・ 図書・雑誌以外では、地図23点が利用された。

## (2) データ管理

### ① 収蔵図書データの管理

収蔵図書の書誌・所蔵データは随時点検、追加入力および修正作業を進めている。平成30年度は1,979冊の書誌データの入力と装備を行った。

### ② 目次データ入力

図書検索システムでは、図書の書誌・所蔵データの他に目次データも入力し、目次を含めた情報を検索対象として「ことば」検索に役立たせている。平成30年度は1,770件の目次データ入力を行った。

## (3) 保存管理

資料の劣化に加え、閲覧やコピー利用による破損も増えつつあり、平成30年度は6冊の製本及び合本をし、184冊の破損本を修理した。  
なお、劣化が激しく合本できない雑誌については中性紙保存箱で保存している。

## (4) 業務研修

資料収集・整理・保存管理、情報提供など図書館を取り巻く問題は、常に変化している。図書館業界や類似施設についての状況を把握し、今後の図書室の運営に反映させていくことを目的に職員業務研修に参加した。

平成30年度は、日本図書館協会主催の第104回全国図書館大会（平成30年10月19日（金）～20日（土）開催：於 国立オリンピック記念青少年総合センター）などに出席し、業務の向上と他館との情報交換に努めた。

## 2 映像・音響関係

5階映像・音響室では、戦中・戦後の国民生活に関する映像・音響資料等について、検索端末を通して来館者へ提供している。検索端末は全部で20台設置されており、内訳は以下のとおりである。

多人数で同時に利用可能な団体専用端末が2台、当館類似施設の各ウェブサイトを紹介する専用端末が1台、国立国会図書館が提供する約5万の歴史的音源、にいがたMALUI連携地域データベース、麦島勝撮影写真デジタルアーカイブを利用できる専用端末が1台、映像・音響資料を検索する端末が12台となっている。

そのほか4台は、パソコン操作が得意でない来館者も利用できることを目的に、「国民生活」「トピックス・著名人の顔」「スポーツ」「世間を騒がせた出来事」のニュース映画を簡単に閲覧できる検索コーナーやSPレコードの一部を試聴できるコーナー（平成30年度は流行歌や野球、東京、企業関連ソングといったテーマで紹介した）となっている。

また、閲覧室の入口モニターでは、写真展に連動したカルメン・ジョンソン氏のインタビュー映像や皇居乾通り一般公開に伴った皇居周辺の映像、天皇陛下御在位三十年慶祝に関連して皇太子時代のニュース映像等を紹介した。

### 3 ニュースシアター

戦前から戦後のニュース映画と新作のオーラルヒストリーを毎週4作品ずつ選定して毎日上映する「昭和館懐かしのニュースシアター」は、平成30年度において169本のニュース作品と35作品のオーラルヒストリーを上映し、多くの来館者から好評を得ている。

平成30年4月28日（土）から5月6日（日）のゴールデンウィーク期間中にはGW昭和館特別上映会を開催し、昭和館企画のオリジナル作品「灼熱の炎の中で～空襲と人びと～」 「私たちは疎開に行った - 戦時下の子どもたち - 」とアニメ等の映画作品「あした元気にな～れ！～半分のさつまいも～」 「疎開した40万冊の図書」「そよかぜ」「東京キッド」の合計6作品を上映した。

また、平成31年2月7日（木）から2月13日（水）には、平和祈念展示資料館が九段生涯学習館において、特別展示「南洋の島々を描く～二人の軍人とそのまなざし～」を開催したのにもない、復員関係のニュースが盛り込まれているニュース映画等の特集して上映し各館の連携を図った。

### 4 収蔵資料

#### (1) 図書資料の収蔵状況

平成30年度は、前年度に引き続いて、戦中・戦後の国民生活に関する図書・雑誌をはじめ、写真集や少年少女雑誌・児童向け図書などを中心に収集した。収蔵概数は次表の通りである。（平成31年3月末現在）

国民生活関係図書	63, 219冊
戦争に関する基本的図書	20, 836冊
独自資料	35, 980冊
その他基本図書	11, 555冊
合計	131, 590冊

<平成30年度の主な受入資料の内訳>

○ 国民生活関係	2, 917冊
・ 当時刊行された雑誌類や生活体験記等	
『少年倶楽部 第27巻10号(昭和15年10月号)』	
『戦時下の教師と子どもたち』	
『慶應義塾幼稚舎疎開学園の記録 別巻』	
『私の八月十五日 6 戦後七十三年目の証言』等	
○ 戦争に関する基本的図書	705冊
・ 太平洋戦争関連の基本文献、部隊史、戦争関連の体験記等	
『太平洋戦争通史』	
『多摩の戦争遺跡』	
『学徒出陣とその戦後史』	
『私の八月十五日〈5〉戦後七十二年目の証言』等	
○ その他	60冊
・ 寄贈を受けた各類似施設の刊行物等	
『国立歴史民俗博物館研究報告』『東京都江戸東京博物館紀要』等	
・ 定期購読誌	
『文藝春秋』『中央公論』『新潮45』『丸』等	

(2) 映像・音響資料の収蔵状況

利用者が検索システムを利用して閲覧できる映像・音響資料の収集を進めている。平成30年度は、東京大空襲・戦災資料センター所蔵する九段周辺や神田周辺の焼け跡を撮影した東方社のカメラマン光墨弘氏撮影写真、カメラマンの師岡宏次氏が撮影し、写真集「思い出の東京」に掲載された写真、進駐軍の天然資源局で水産関係の仕事に従事していたウィリアム・C・ヘリントンが、主に昭和22年から26年に日本各地で撮影したカラー写真、東京パラリンピックで大会マーク等デザイン制作に関わった高橋春人氏が大会を撮影した写真を入手し、館内アーカイブでの提供に向けて整理作業を進めている。

<平成30年度の受入資料>

(1) 記録写真	4, 465枚	
<主な資料>		
米国国立公文書館所蔵		436枚
マッカーサ記念館所蔵ルスパート・スターコレクション		54枚
東京大空襲・戦災資料センター所蔵		85枚
師岡宏次氏撮影写真		198枚
ウィリアム・C・ヘリントン撮影写真		577枚
高橋春人氏撮影写真		737枚
(2) 記録映像	51本	
<主な資料>		
日本ニュース	41本	
東京オリンピック記録映画	5本	
(3) 音響資料	29枚	
全て個人寄贈のSPレコード		

<平成31年3月末現在の提供データ件数>

	データ件数
静止画資料	26, 151件
動画資料	3, 350件
音響資料	13, 641件
計	43, 142件

### Ⅲ 関連情報提供事業

関連情報提供事業では、①昭和館が所蔵する図書資料、映像・音響資料の情報、②雑誌資料等をデータベース化した情報、③昭和館類似施設（国内110カ所）の基本情報を、それぞれ来館者が端末で利用できるよう提供している。

特に図書資料については千代田区内の関連施設・大学図書館との横断検索ができるようになっている。

#### 1 運用管理

##### (1) システム運用管理

来館者に総合データベース（図書雑誌目次情報、静止画（写真）、動画、音響）、個別データベース（戦史叢書・陸海軍部隊略歴、デジタル雑誌など）及び類似施設等の関連情報を提供している。来館者が様々な条件から資料を検索し、閲覧できる方法を採用している。

システム稼働は安定しており、ハードウェア及びデータ損傷等の大きなトラブルはなかった。

平成30年度の各データベースへのアクセス数をまとめたのが次表である。アクセス総数は471,763件、月平均約39,313件で、多くの来館者に利用されている。

	図書	雑誌	写真	映像	音響	個別DB	月別合計
平成30年4月	4,081	1,480	41,911	8,668	3,389	88	59,617
5月	4,508	2,054	38,549	8,750	2,796	150	56,807
6月	4,288	2,413	23,488	8,345	2,239	132	40,905
7月	2,739	1,701	20,381	7,713	3,403	180	36,117
8月	3,522	2,329	30,123	9,989	4,175	269	50,407
9月	2,336	2,569	20,047	6,838	2,998	91	34,879
10月	3,784	1,694	14,810	5,402	2,108	135	27,933
11月	3,429	1,748	18,148	7,544	2,846	204	33,919
12月	4,357	1,599	20,194	9,268	3,564	228	39,210
平成31年1月	2,603	1,182	11,720	7,547	2,411	212	25,675
2月	3,350	1,358	17,970	5,992	2,582	236	31,488
3月	1,611	696	21,892	7,446	3,094	67	34,806
合計	40,608	20,823	279,233	93,502	35,605	1,992	471,763



## (2) データベース運用管理

来館者閲覧用及び記録資料のデジタル化を進め、以下のデータベースを稼働させている。館内で職員が常に情報追加・更新を行っている総合データベースと、公刊戦史や部隊情報、雑誌をデジタル化した個別データベースに分けることができる。

- 収蔵図書・雑誌目次情報（総合データベース）  
収蔵図書や雑誌の書名・著者名・雑誌名等書誌情報のほか、目次を全てテキスト入力しており、「目次情報」からも検索ができるようになっている。
- 収蔵映像・音響資料情報（総合データベース）  
収蔵している静止画（写真）、動画及び音響資料（SPレコード）を、タイトルや作曲者名等の資料情報から検索でき、目的の映像または音楽を表示し、また視聴できるようにしている。
- デジタルライブラリー（個別データベース）  
昭和館で独自に開発したデータベースで、年鑑と雑誌をデジタル化し、それぞれが検索でき、各雑誌間での横断検索も可能である。今年度は「毎日新聞」「教材ニュース」「文化ニュース」「家庭週報」「大東亜戦争 同盟写真ニュース」「日刊スポーツニッポン」の画像データ化を行った。
- 戦史叢書・陸海軍部隊略歴検索システム（個別データベース）  
防衛庁防衛研究所戦史室編纂の『戦史叢書』、厚生省援護局編纂の「部隊略歴簿」「艦船行動調書」等をデータベース化し、横断検索を可能にして、利用の便を高めている。

## (3) ホームページ運用管理

開館時から引き続き昭和館ホームページの定期更新を行っている。

平成30年度のアクセス数は次のとおりであった。

・平成30年度	271,086件
・平成30年度月間平均	22,590件
・開館時からの累計	3,045,717件
内「キッズナビ」へのアクセス数	
・平成30年度	8,502件
・平成30年度月間平均	708件
・平成18年（導入時）からの累計	199,516件

※システムエラーにより算出ができなかった平成29年9月分は含まず。

#### (4) SNSの活用

広報の一環として、Twitter、Facebook、YouTubeでの情報発信を開始し、特別企画展をはじめとするイベントや図書室の資料紹介、所蔵映像等の情報を提供した。

平成31年3月末までのアクセス数等は、以下の通りである。

Twitter登録者数	フェイスブック閲覧者数	YouTube視聴回数
906	9,329	8,021

#### (5) Wi-Fi提供

図書室、映像・音響室等での学習や調査研究を助けるため、外国人来館者へ向けたサービス向上のために1階ロビー、3階研修室、4階図書室、5階映像・音響室で提供をしている。

## 2 オーラルヒストリーの制作

戦中から戦後にかけての労苦を体験された方々の証言を、永く後世に伝えるため、「オーラルヒストリー」の制作を昨年に引き続き実施した。

戦没者妻や遺児による戦没者への遺族の想いや、戦中・戦後の苦しかった生活体験などを中心に、空襲、学校生活、疎開生活等、26名の証言（29作品）の収録を行った。

作品は以下のとおりである（編集中の作品を含む）。

作品タイトル	証言者
夫の戦死と生計を支えた和裁	田部井 ナヲ
我慢を強いられた少女時代	谷 暎子
戦後の児童雑誌に関わって	谷 暎子
少年時代と戦争	仲代 達矢
戦後の労苦と役者への道	仲代 達矢
疎開保育園のけんちゃん	田辺 健之
少年が見た戦中・戦後の静岡	見崎 福司
10歳の少女の疎開と戦中・戦後の生活	島本 京子
小学校生活と終戦の記憶	小林 留美子
戦時下の農村と子ども	甘浦 敏雄
二度の疎開と空襲、戦後の学生生活	臼田 礼子
戦後58年目の卒業式	三浦 和子
昭和を代表する古関裕而を振り返る	古関 正裕
10代の太平洋戦争<小学校編>（編集中）	半藤 一利

作品タイトル	証言者
10代の太平洋戦争<中学校編> (編集中)	半藤 一利
子ども達に伝えたい平和の大切さ	鈴木 正一
用務員室からみた戦中・戦後	新房 通善
都会から来た疎開児童	新房 マスミ
戦死した父が託したもの	山本 佑一郎
看護学校への進学と父の手紙	馬場 紘美
はがきが伝える父の戦没地	嵩下 八重子
戦死の日に見た夫の夢と我が子への想い	柳田 喜美子
ニューギニアでの体験と戦友たちへの想い	中野 清香
歌で見送った父の出征	田中 サナエ
父への想いと戦後の佐世保	田中 暁
母の苦労と遺児としての暮らし	山下 裕子
戦後の沖縄を生きて	宮城 篤正
夫の戦死と新しい命	大城 ハツ
母とくぐりぬけた沖縄戦	照屋 苗子

## IV 啓発広報等事業

### 1 広報活動

#### (1) 広報資料の作成及び発送

「昭和館館報」については、都道府県、政令指定都市、東京特別区、教育委員会、老人クラブ連合会、各省庁図書館等に対して送付している。

なお、都道府県遺族会、類似施設、大学図書館等には「昭和館館報」と「昭和のくらし研究」を併せて送付し、当館の周知を図っている。

また、昭和館と学校をつなぐ広報誌「昭和館だより」第30号を平成30年6月下旬から7月上旬に関東の小学校（5年生）来館校、中学校（2年生）来館校、千代田区内の公立小学校（全校生徒）、東京都の校長会等で配付依頼した小学校（5年生）に発送した。更に東京都小学校社会科研究会、全国小学校社会科研究会に参加をして事業の説明を行い来館の促進を図った。

なお、全国の小・中・中等教育校に対しては平成30年11月に「昭和館だより」第31号を送付し当館の実施事業の周知を図ることに努めた。

その他に、今年度巡回特別企画展開催前に群馬県校長会、香川県教頭会に連絡し、巡回企画展の広報に努めた。

#### (2) 広報と掲示及び掲載

当館の事業内容のPRのために、九段下駅4出口、東西線2番ホーム、半蔵門線3番ホームに電飾掲示板を設置して、九段下駅コンコース案内図に事業内容のPR活動を行った。

また、特別企画展開催等の際には、都営新宿線の車内に、窓上ポスターを掲示したり、千代田区コミュニティバスの車内広告や九段郵便局等にポスターを掲示する等PRに努めた。

なお、郵便局の利活用については、巡回特別企画展においても行った。

さらに、毎月発行される東京メトロ「沿線だより」、東京メトロ・東京都交通局一日乗車券特典ガイド「ちかとく」、JTBや千代田区等のガイドブック、毎月発行される千代田区報に当館の紹介記事を掲載した。

その他、毎日新聞、東京新聞、産経新聞、日本教育新聞に広報記事を掲載した。

#### (3) 昭和館だよりの発行

昭和館の活動を学校等に随時伝えるため、広報誌「昭和館だより」第30号、第31号を、平成30年6月と平成30年11月に発行し、

(1)に記載した教育関係機関に発送した。

(4) 戦中・戦後の労苦を伝える語り部育成事業

① 事業の概要

戦中・戦後の労苦を体験した者が高齢化する中、当時のことを語り継いでいくことが難しくなっていることから、国民が体験した戦中・戦後のくらしの上での様々な労苦を後世に語り継いでいく、戦後世代の伝承者である「語り部」を3年計画で育成する事業を行っている。

② 事業の実施状況

ア 平成28年度に募集した1期生(11名)については、月1回のペースで研修(各期共通)を行い、これまで30回の研修を実施した。平成29年度に募集した第2期生(8名)については、これまでに19回の研修を実施。また、平成30年度に募集した第3期生(7名)については、これまでに7回の研修を実施した。

イ 研修予定

- \* 1～2年目 : 語り部としての基礎知識研修、「家族の別れ」等テーマ別研修、話法・朗読技術の研修、体験談の聴講・体験者との交流等
- \* 2～3年目 : 語り部実演・発表によるスキルアップ等

③ 研修終了後は、昭和館から委嘱をした方には昭和館の語り部として講話等の活動をしていただく予定である。

(5) こども霞が関見学デー

文部科学省主催で、平成30年8月1日(水)、2日(木)の2日間、各省庁を会場として開催された。昭和館は、厚生労働省社会・援護局の企画として「戦中・戦後のくらしを学ぼう!」のタイトルで、貸出キットや雑誌資料、写真映像資料による出張展示を行った。訪れた子どもたちは、昔の子どもたちが工作で作った「コロコロ戦車」作りや、夏休みの自由研究に使用できるワークシートにチャレンジした。

- ・開催期間 平成30年8月1日(水)～2日(木)
- ・会場 厚生労働省 仮設会議室
- ・入場者数 1,264人

(6) 第17回昭和館見学作文コンクール

昭和館および巡回特別企画展を見学した小・中学生を対象に、見学作文コンクールを実施した。2校の小学校(6年生)と1校の中学校(1年生)、1校の支援学校中学部(2年生)から90作品、個人から9作品(小2、小4、小5、小6、中2)の計99作品の応募があった。

審査の結果、中学校2年生の佐藤美咲さんの作品が厚生労働大臣賞(別掲)に、中学校2年生の小山桂樹さんと小学校4年生の三浦ルイスさんの作品が昭和館館長賞に選ばれた。作品はホームページ上で公開した。

(7) 第11回昭和館中学生・高校生ポスターコンクール

中学生・高校生を対象に、あなたが感じた戦中・戦後の暮らし、昭和館を見学して、ポスターにしてみようを募集したところ、合計155作品の応募があった。

審査の結果、あいち造形デザイン専門学校高等課程の村尾梨佳さんの作品が最優秀賞に(別掲)、優秀賞(別掲)に7作品、佳作に10作品が選ばれた。



作文コンクール



ポスターコンクール

## 2 『昭和のくらし研究』の刊行

昭和館の設立趣旨である「戦中・戦後の国民生活上の労苦を次の世代に伝える」昭和館開館二十周年記念紀要『昭和のくらし研究』第17号を平成31年3月に刊行した。(平成15年度から年1回刊行)

目次は次の通りである。

### 『昭和館のくらし研究』第17号 目次

昭和館開館二十年を迎えて・・・・・・・・・・・・・・・・	昭和館館長	羽毛田信吾
特集 昭和館二十年の歩み		
聖火リレーへの思いとは		
—沖縄を中心に、聖火をめぐる話—	・・・・・・・・	佐野 慎輔
オリンピックの「芸術競技」		
ヒトラーのオリンピックと芸術	・・・・・・・・	大野 益弘
資料紹介 長春市第四十六団第九十一大隊第一中隊遺送関係資料		
・・・・・・・・・・・・・・・・		吉葉 愛
平成29年度 昭和館図書室のレファレンス事例紹介		
・・・・・・・・・・・・・・・・		新城 敦



昭和のくらし研究第17号

### 3 展示資料の貸出

- 「第12回企画展テーマ展示「明治青年 秋山真之」」
  - ・ 開催期間：平成30年2月27日（火）～平成31年2月17日（日）
  - ・ 会場：坂の上の雲ミュージアム 4階展示室3
  - ・ 貸出資料：図書資料 7冊
  
- 「Oh! マツリ☆ゴト 昭和・平成のヒーロー&ピーポー」
  - ・ 開催期間 平成30年12月10日（月）～平成31年3月31日（日）
  - ・ 会場 兵庫県立美術館 企画展示室
  - ・ 貸出資料 実物資料（紙芝居）3点

### 4 昭和館運営専門委員会の開催

昭和館の事業計画の策定、事業の運営等に当たっては、開館以来「昭和館運営専門委員会」を年2回開催し、同委員会の意見を踏まえ、事業の充実推進を図っている。

#### 昭和館運営専門委員会 委員名簿

（平成31年3月31日現在 50音順、敬称略）

委員長	宮 脇 岑 生	（元国立国会図書館副館長）
委員	赤 木 完 爾	（慶應義塾大学教授）
〃	上 野 憲 示	（文星芸術大学学長）
〃	加 納 正 弘	（元厚生省大臣官房審議官）
〃	鈴 木 淳	（東京大学大学院人文社会系研究科教授）
〃	関 沢 まゆみ	（国立歴史民俗博物館研究推進センター長）
〃	花 輪 隆 昭	（元昭和館館長）
〃	松 井 かおる	（江戸東京博物館学芸員）
〃	吉 村 潔	（世田谷区立烏山北小学校長）



## 5 昭和館運営有識者会議の開催

昭和館の運営について、幅広い視野からの意見を得ながら、公正かつ中立的な運営を確保するため、平成15年4月から厚生労働省社会・援護局に「昭和館運営有識者会議」を設置し、これまでに19回にわたり委員会を開催し、昭和館運営事業の計画概要の意見交換を行っている。

### 昭和館運営有識者会議委員会 委員名簿

(平成31年3月31日現在 順不同・敬称略)

委員長	波多野 澄 雄	(国立公文書館アジア歴史資料センター長)
委員	國 松 善 次	(一般財団法人滋賀県遺族会相談役)
〃	増 田 弘	(立正大学法学部法学科特任教授)
〃	神 津 カンナ	(作家・エッセイスト)
〃	上安平 洌 子	(NHKグローバルメディアサービス元企画事業部長)
〃	鈴 木 淳	(東京大学大学院人文社会系研究科教授)
〃	藤 田 琢 治	(板橋区立板橋第二中学校教諭)
〃	松 井 かおる	(江戸東京博物館学芸員)

## 6 インターンシップ

飯田橋公共職業安定所（ハローワーク飯田橋）からの依頼により、高校生の職業意識の形成を目的とする「ジュニア・インターンシップ（就業体験）」を実施し、平成30年8月23日（木）～25日（土）まで東洋高等学校3名を受入れ、職員の指導の下、当館の業務を体験させた。

## 7 関係施設等連携会議の開催等

関係施設等連携会議（昭和館事務局）を開催するとともに、しょうけい館、平和祈念展示資料館との3館の連携に取り組んでいる。

〔 関係機関：厚生労働省社会・援護企画課、総務省大臣官房総務課管理室  
平和祈念展示資料館、しょうけい館、昭和館 〕

### (1) 関係施設等連携会議の開催

第14回会議を平成30年6月6日（水）に開催

第15回会議を平成31年1月30日（水）に開催

### (2) 3館連携「夏休み3館めぐりスタンプラリー」実施

開催期間：平成30年7月14日（土）～9月2日（日）

参加者数：7, 785人

(3) 移動教室「南洋の島々を描く 二人の軍人とそのまなざし」を開催  
開催期間：平成31年2月7日（木）～2月13日（水）

主催：平和祈念展示資料館

協力：昭和館、しょうけい館

場所：九段生涯学習館 2階 九段ギャラリー

(4) 巡回特別企画展の相互協力

- ・群馬県における巡回特別企画展においては、しょうけい館及び平和祈念展示資料館のポスターを掲示するブースを設ける等、各館と連携を図った。
- ・香川県における巡回特別企画展においては、高松市内の同一会場で同時開催された平和祈念展示資料館との連携を図った。しょうけい館についてはポスターを掲示するブースを設けた。

## V 特別企画展等の開催及び概要

昭和館では、多岐にわたる「戦中・戦後の国民生活上の労苦」を次の世代に伝えるため、常設展示とは違った視点や内容で、特別企画展等を開催している。

### 1 特別企画展

#### 「昭和館で学ぶ『この世界の片隅に』」

戦中・戦後を広島・呉で暮らす女性を主人公とした漫画『この世界の片隅に』では、当時の市井の人々のささやかな喜び、楽しみ、哀しみ、苦しみを物語に込め、日常の暮らしがユーモラスにかつ淡々と描写されている。作者のこの史代さんは、昭和館などでの資料調査や聞き取り調査を踏まえ、当時の暮らしぶりや使われていた道具などを克明に描いている。

漫画『この世界の片隅に』に描かれた、戦中・戦後の「この世界」をリアルに感じてもらうため、漫画パネルとあわせ、作品に描かれた実物資料や当時の様子を写した写真等、約230点の資料を紹介した。



開催期間：平成30年7月21日（土）～9月9日（日）

会場：昭和館3階 特別企画展会場

入場者数：35, 213人（約800人／1日）

#### <展示構成>

##### プロローグ

##### I 家庭の暮らし

1. 着る
2. 食べる
3. 住まう
4. 楽しむ

##### II 銃後を支えた人々

1. 地域と戦争
2. 空襲への備え

##### III 戦争がもたらしたもの

1. 出征と帰還
2. 空襲の中で

#### IV 戦争が終わって

- 1.終戦 2.食糧難 3.戦災孤児  
エピローグ

#### <イベント>

1. みんなで作ろう！「昭和のくらし イロハカルタ」  
期 日：平成30年8月5日（日）、8月11日（土）  
会 場：3階会議室  
参加者数：167人

2. 展示解説  
期 日：平成30年7月29日（日）、8月26日（日）  
会 場：3階特別企画展会場  
参加者数：195人

## 2 昭和館開館20周年記念特別企画展

### 「日本のオリンピック・パラリンピック ～大会を支えた人々～」

来たる2020年には、東京で2度目となるオリンピック・パラリンピックが開催される。

本展では、昭和15年(1940)に予定されていたにもかかわらず、戦争の影響で中止になった幻のオリンピック東京大会、昭和39年(1964)に開催されたオリンピック東京大会、そしてこのオリンピック終了後に開催されたパラリンピック東京大会などについて、誘致や開催に尽力した人々の軌跡を中心に紹介した。

開催期間：平成31年3月16日（土）～令和元年5月6日（月）

会 場：昭和館3階 特別企画展会場

協 力：秩父宮記念スポーツ博物館 社会福祉法人太陽の家

後 援：スポーツ庁 公益財団法人日本オリンピック委員会

公益財団法人日本障がい者スポーツ協会日本パラリンピック委員会

特定非営利活動法人日本オリンピック・アカデミー

特定非営利活動法人日本スポーツ芸術協会

千代田区 千代田区教育委員会

入場者数：48,800人（1,061人／1日）

#### <展示構成>

I オリンピック「はじめて」物語

II 幻のオリンピック東京大会 —1940—

### Ⅲ 待望のオリンピック東京大会開催 —1964—

1. 戦後日本、誘致への再挑戦
2. オリンピック東京大会の開催
3. オリンピック東京大会がもたらした文化

### Ⅳ パラリンピックのあゆみ

#### <イベント>

#### 1. 昭和紙芝居上演会

オリンピックに関する紙芝居と街頭紙芝居を上演した。

期 日：平成31年3月23日（土）

会 場：1階ニュースシアター

参加者数：107人

#### 2. ミニ講演会

昭和39年（1964）パラリンピック東京大会に語学奉仕団として参加した方に、当時の思い出を語っていただいた。

話 者：郷農彬子さん、吹浦忠正さん、吉田紗栄子さん

期 日：平成31年3月30日（土）

会 場：1階ニュースシアター

参加者数：64人

#### 3. 展示解説

期 日：平成31年3月24日（日）・4月7日（日）・4月27日（土）

会 場：3階特別企画展会場

参加者数：59人

#### 4. スポーツ車いす体験

期 日：平成31年4月13日（土）

会 場：2階ひろば

参加者数：75人




### 3 特別展示

#### 「天皇陛下御在位三十年慶祝展示・映像紹介」

内閣に設置された「天皇陛下の御退位及び皇太子殿下の御即位に伴う式典準備委員会」の基本方針に従い、「天皇陛下御在位三十年慶祝展示・映像紹介」を開催した。陛下の歩まれた戦中・戦後、なかでも「御誕生」「御就学」「御疎開」「終戦」「立太子」「御成婚」の各時期を中心に、関連する国民生活の資料とともに展示し、併せて、先の大戦における戦没者を追悼される陛下の御姿を紹介した。

開催期間：平成31年2月21日（木）  
～3月3日（日）  
会場：昭和館3階 第1・第2研修室  
主催：昭和館 入場者数：2,725人  
(約273人/1日)



天皇陛下御在位  
三十年慶祝  
展示・映像紹介

本年2月24日、天皇陛下の御在位三十年を記念して、「天皇陛下御在位三十年記念式典」が開催されます。当館では、御在位三十年を祝い、御生涯から御成婚にいたるまでの天皇陛下の御姿や、戦没者追悼の様子などを、当時の世相や人々の暮らしについての資料を交えて紹介します。

平成31年 2月21日(木) ▶ 3月3日(日)  
※2月24日(日)は常設展示室も入場無料となります。  
10時～17時30分(入館は17時まで)  
昭和館3階 企画展示場

主催 昭和館 問い合わせ/予約センター 03-3222-2577 <http://www.showakan.go.jp/>

入場無料

## 4 写真展

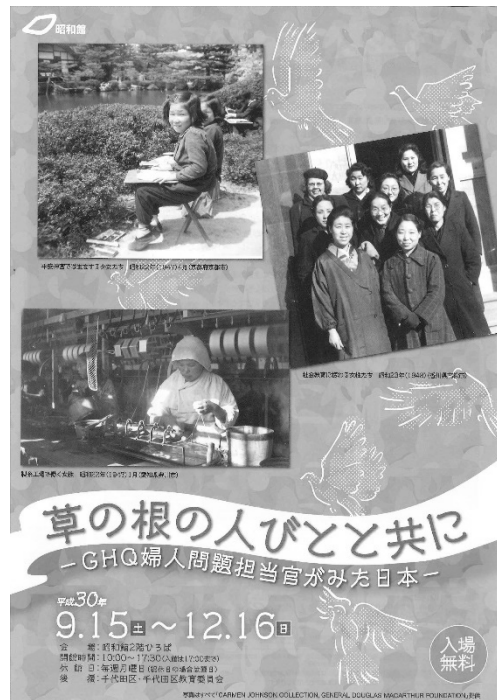
### 「草の根の人びとと共に－GHQ婦人問題担当官がみた日本－」

開催期間：平成30年9月15日(土)から12月16日(日)

会 場：昭和館2階広場

内 容：GHQの女性スタッフとして民主主義や女性の地位向上等に尽力したカルメン・ジョンソン氏が撮影した日本人の生活の様子や町の風景、働く女性たちの姿を紹介した。

入場者数：17,252人  
(約216人/1日)



## 5 昭和館開館20周年記念写真展

「昭和に会える旅ー47都道府県をめぐるー」

開催期間：平成31年3月16日（土）から令和元年5月6日（月）

会場：昭和館2階広場

展示内容：戦前から戦後を通して、47都道府県それぞれの観光名所や訪れた人びとの様子、駅、乗り物など、旅にまつわる様々な情景が写し出されている写真を紹介した。

入場者数：29,893人  
 （約650人/1日）  
 （内、平成30年度は、  
 11,482人）



## 6 資料公開コーナー

昭和館が収蔵する映像資料・写真資料（5階）・図書資料（4階）を多くの来館者に利用していただくきっかけになることを目的に、1階ロビーの一角にコーナーを設けて、資料を随時公開している。

平成30年度に紹介した資料の各テーマと期間は、以下の通りである。

実施回	タイトル	期間
第68回	中高校生ポスターコンクール入賞作品展示	平成30年4月3日 ～7月1日
第69回	禁じられた音楽 ー自由に楽しむことができなかった時代ー	平成30年7月3日 ～9月24日
第70回	閉ざされた学業 ー繰り上げ卒業と学徒出陣壮行会ー	平成30年9月26日 ～12月27日
第71回	開館20周年記念 子どもたちの夢と憧れ オリンピック	平成31年1月5日 ～3月31日

注：回数は平成19年度開始以来の通算回数



# 1 昭和館入場者状況の推移（平成11年度～30年度）

	常設展示室										図書室	特別企画展	ニュースコーナー	総計		
	大人	高校・大学生	小・中学生	ぐるっパス	無料	合計		映像・音響室	図書室	特別企画展					ニュースコーナー	総計
						大人	小・中学生									
平成11年度	84,620	2,479	3,737	-	-	90,836	35,236	19,398	31,142	-	176,612					
平成12年度	40,457	1,973	10,186	-	2,914	55,530	27,661	16,370	24,112	-	123,673					
平成13年度	36,830	2,396	19,739	-	3,610	62,575	38,866	20,616	33,903	65,124	221,084					
平成14年度	29,847	3,373	19,710	-	4,016	56,946	39,286	20,622	26,204	112,402	255,460					
平成15年度	28,802	2,725	22,713	-	5,235	59,475	34,328	19,072	28,953	115,594	257,422					
平成16年度	29,862	3,140	27,162	-	5,592	65,756	33,046	19,573	26,920	112,164	257,459					
平成17年度	30,288	2,596	29,502	-	6,265	68,651	35,416	19,449	35,611	124,259	283,386					
平成18年度	28,407	2,919	25,504	-	6,363	63,193	29,225	18,465	35,848	125,484	272,215					
平成19年度	26,845	3,611	27,519	-	7,605	65,580	32,683	17,617	66,280	133,564	315,724					
平成20年度	23,469	3,245	31,847	-	6,082	64,643	32,101	17,270	45,719	119,418	279,151					
平成21年度	20,997	2,412	28,736	2,540	6,059	60,744	29,787	19,898	40,627	115,523	266,579					
平成22年度	21,076	2,605	28,051	2,102	5,194	59,028	28,388	19,011	53,423	105,242	265,092					
平成23年度	18,400	3,347	24,067	1,815	4,868	52,497	28,410	19,130	55,293	88,989	244,319					
平成24年度	19,340	2,644	24,419	1,662	5,206	53,271	33,092	20,984	83,568	99,329	290,244					
平成25年度	20,952	3,173	24,932	1,636	6,284	56,977	32,653	22,013	68,427	126,225	306,295					
平成26年度	20,367	3,225	33,335	1,884	8,524	67,335	37,692	22,523	104,753	138,008	370,311					
平成27年度	28,362	3,689	34,660	2,559	7,667	76,937	37,252	20,499	163,928	226,440	525,056					
平成28年度	21,932	3,264	33,706	1,913	4,461	65,276	31,007	18,781	95,210	143,326	353,600					
平成29年度	23,737	3,152	44,970	1,795	5,091	78,745	38,110	21,449	149,538	174,407	462,249					
平成30年度	24,890	4,060	34,244	1,818	5,572	70,584	31,176	17,626	141,383	156,586	417,355					
合計	579,480	60,028	528,739	19,724	106,608	1,294,579	665,415	390,366	1,310,842	2,282,084	5,943,286					

## 2 平成30年度利用者実績

	常設 展示室	映像・ 音響室	図書室	ニュース シアター	特別 企画展等	合計	特別企画展等内訳
平成30年 4月	3,815	2,181	1,168	20,156	24,862	52,182	4/1 (3/10~5/6) 特別企画展期間 4/1 (3/17~5/6) 写真展期間
5月	5,763	2,302	1,372	13,225	9,307	31,969	~5/6 特別企画展期間 ~5/6 写真展期間 5/26 紙芝居定期上演会
6月	3,600	1,715	925	6,248	0	12,488	
7月	3,901	1,948	1,548	9,665	6,262	23,324	7/14~ 夏休み3館めぐりスタンプラリー 7/21~ 特別企画展期間 7/28 紙芝居定期上演会
8月	8,540	3,295	2,795	22,152	24,983	61,765	夏休み3館めぐりスタンプラリー 特別企画展期間
9月	4,559	1,856	1,269	10,346	8,210	26,240	~9/2 夏休み3館めぐりスタンプラリー ~9/9 特別企画展期間 9/16~ 写真展期間 9/22 紙芝居定期上演会
10月	3,813	1,818	909	8,811	13,722	29,073	写真展期間 10/12~10/23 群馬県巡回特別企画展期間
11月	7,632	3,669	1,645	13,376	17,748	44,070	11/10~11/23 香川県巡回特別企画展期間 写真展期間 11/24 紙芝居定期上演会
12月	9,515	4,289	2,000	13,706	3,563	33,073	~12/16 写真展期間
平成31年 1月	6,562	3,018	1,585	9,692	167	21,024	
2月	8,819	2,641	1,714	11,819	2,082	27,075	2/2 紙芝居定期上演会 2/21~ 特別展示期間
3月	4,065	2,444	696	17,390	30,477	55,072	~3/3 特別展示期間 3/16~5/6 特別企画展期間 3/16~5/6 写真展期間 3/24 紙芝居定期上演会
合計	70,584	31,176	17,626	156,586	141,383	417,355	

## 3 常設展示室入場者数

総数	区分	種別	人数	割合(%)
70,584人	有料 30,768人	高・大学生	4,060人	5.8
		一般	26,708人	37.8
	無料 39,816人	小・中学生	34,244人	48.5
		視察者等	3,590人	5.1
		心身障害者	1,510人	2.1
		未就学児	472人	0.7

(参考) 団体による来館学校数

総数	区分	学校数	割合(%)
588校	小学校	345校	58.7
	中学校	172校	29.3
	高校	28校	4.8
	専門学校	8校	1.4
	大学	35校	6.0

## 4 来館団体御芳名

(敬称略)

月日	団体名	人数	月日	団体名	人数
5月9日	京華商業高等学校2年生	182名	12月11日	葛飾市立水元小学校6年生	109名
5月18日	相模原市立清新中学校2年生	266名	"	江戸川区立船堀第二小学校6年生	119名
5月22日	横浜市立錦台中学校2年生	199名	12月12日	千葉市立海浜打瀬小学校6年生	127名
5月23日	平塚市金目中学校2年生	122名	12月13日	品川区立第二延山小学校6年生	101名
5月25日	京都市立東山泉小中学校9年生	103名	"	守谷市立松ヶ丘小学校6年生	103名
5月30日	横浜市立森中学校2年生	151名	"	江戸川区立松江小学校6年生	107名
5月31日	海老名市立柏ヶ谷中学校2年生	162名	12月14日	印西市立原小学校6年生	126名
6月13日	板橋区立赤塚第二中学校2年生	151名	12月18日	江東区立数矢小学校6年生	102名
6月14日	奈良市遺族会	116名	"	江戸川区立第七葛西小学校6年生	104名
6月22日	つくば市立秀峰波義務教育学校6年生	157名	"	江東区立南陽小学校6年生	122名
7月18日	都立青井高等学校	198名	"	武蔵野市立大野田小学校6年生	131名
7月19日	市原市立ちはら台桜井小学校6年生	128名	"	立川市立第三小学校6年生	107名
8月15日	京都府全国戦没者追悼式参列遺族団	160名	"	江戸川区立篠崎第四小学校6年生	106名
9月11日	葛飾区立上小松小学校6年生	111名	12月19日	横浜市立日吉台中学校2年生	352名
9月20日	宮田村立宮田小学校6年生	100名	"	市原市立京葉小学校6年生	109名
"	鎌ヶ谷市立道野辺小学校6年生	103名	"	船橋市立法典東小学校6年生	123名
"	名張市立桔梗が丘中学校2年生	116名	1月9日	横浜市立上瀬谷小学校6年生	129名
9月26日	石岡市立東小学校6年生	104名	1月11日	川崎市立登戸小学校6年生	111名
9月28日	墨田区立二葉小学校6年生	103名	"	袖ヶ浦市立長浦小学校6年生	120名
10月3日	名張市立南中学校2年生	110名	"	伊奈町立小針北小学校6年生	275名
10月17日	笠間市立友部小学校6年生	137名	"	ふじみ野市立福岡小学校6年生	114名
10月23日	江東区立第三砂町小学校6年生	105名	1月16日	君津市周西小学校6年生	102名
10月28日	常総市戦没者遺族会	296名	"	八潮市立大原小学校6年生	107名
11月1日	世田谷区立桜丘中学校2年生	176名	1月18日	小田原市立東富水小学校6年生	110名
11月6日	江東区立明治小学校6年生	172名	"	稲城市立稲城第三小学校6年生	101名
"	足立区立洲江第一小学校6年生	120名	"	八潮市立潮止小学校6年生	110名
"	下妻市遺族会	148名	1月22日	八王子市立上巻分方小学校6年生	100名
"	明治神宮崇敬会三郷支部	178名	"	江戸川区立葛西小学校6年生	105名
11月8日	桐蔭学園小学部6年生	138名	1月29日	江戸川区立篠崎小学校6年生	105名
11月13日	足立区立綾瀬小学校6年生	162名	2月1日	桶川市立桶川東小学校	140名
11月14日	駒ヶ根市立赤穂小学校6年生	120名	2月5日	四街道市立四街道小学校6年生	107名
11月20日	江東区立浅間堅川小学校6年生	194名	2月6日	柏市立柏第四小学校6年生	144名
11月21日	守谷市立御所ヶ丘中学校2年生	220名	2月7日	武蔵村山市立第七小学校6年生	101名
"	朝霞市立朝霞第六小学校6年生	151名	"	杉並区立高井戸第二小学校6年生	128名
11月22日	江東区立第二砂町小学校6年生	113名	"	川口市立新郷小学校6年生	162名
11月27日	稲城市立稲城第一小学校6年生	110名	2月8日	成田市立成田小学校6年生	129名
"	練馬区立石神井西中学校1年生	190名	2月14日	文京区立窪町小学校6年生	130名
"	千葉市立扇田小学校5年生	129名	"	豊島区立目白小学校6年生	101名
"	江戸川区立第五葛西小学校6年生	101名	2月15日	白百合学園小学校3年生	121名
11月28日	八王子市立由木中央小学校6年生	108名	"	府中市立住吉小学校6年生	110名
11月29日	江戸川区立西一之江小学校6年生	104名	2月19日	府中町立四谷小学校6年生	115名
11月30日	千葉市立検見川小学校6年生	104名	"	世田谷区立深沢小学校6年生	110名
"	江戸川区立篠崎第三小学校6年生	108名	2月20日	市川市立大洲小学校6年生	103名
12月4日	足立区立亀田小学校6年生	110名	2月21日	目黒区立中目黒小学校6年生	120名
"	江戸川区立宇喜田小学校6年生	101名	2月22日	暁星小学校3年生	123名
"	小山市立羽川小学校6年生	113名	2月26日	東京学芸大学附属大泉小学校6年生	106名
12月6日	品川区立第三日野小学校6年生	115名	2月27日	西東京市立けやき小学校6年生	102名
12月7日	江東区立第五砂川小学校6年生	106名	"	相模原市立大野南中学校2年生	287名
"	江戸川区立鎌田小学校6年生	103名	3月1日	田原市遺族連合会	107名
"	八潮市立大瀬小学校6年生	118名	3月14日	江東区立深川第四中学校2年生	171名

※紙面の都合により、100名以上で来館した団体のみを掲載しております。

## 5 第17回昭和館見学作文コンクール・厚生労働大臣賞受賞作品

### 昭和館で変わった戦争との距離

中学校（2年） 佐藤 美咲

夏休みの一日、私は初めて家族と昭和館を訪れました。

私は今まで学校の授業で見た動画、教科書や資料集、また実際に行ってみた千葉の民俗資料館、長崎の原爆資料館、鹿児島を知覧特攻平和会館で戦争について学びました。「戦争は2度とおこしてはならない」「平和は尊いもの」ということは、頭で十分わかっているつもりでした。

しかし、今、私が生きている毎日には武力による戦いは無く平和だからなのか、「戦争の時代」が、どこか遠い時代の出来事のように感じていました。ところが昭和館の「引き揚げ」の展示で私の足が止まりました。母から亡くなった私の曾祖父母が、中国の上海からの引揚者だと聞いていたからです。曾祖父母の家で見た、亡くなるまで大切に持っていた「引揚証明」と同じものが昭和館にありました。どこか遠くの出来事のように思っていた戦争の日々が、急に近くに感じました。引揚船から上陸する動画を見て、曾祖父母もこのように、持てるだけの荷物を持って帰ってきたのかと、何度も動画を再生して見ました。昭和館の史料検索で「引揚」のキーワードを入れて検索すると、曾祖父母がもっていたのと同じ沢山の引揚証明証が出てきました。どれも大切に保管されていたことを考えると、この一枚の紙が、引揚者にとってとても大切な証明証だったに違いないと思いました。

次に「引き揚げ体験談があります」という表示を見て、私は読んでみようとの階の図書コーナーに行きました。しかし、とてもその日では読み切れない引揚記録が20冊もありました。深く考えてみれば何百万人もいた引揚者の中で、本にまとめてあるのはその中のほんの少しだと気が付きました。私はその中から、曾祖父母と同じ上海からの引揚の記録を探して静かに読んでみました。

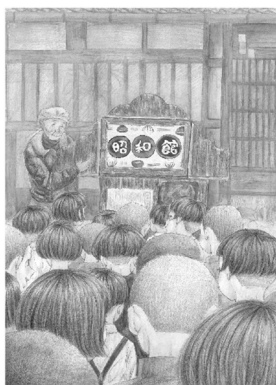
家に帰ってから、私の母が私と同じ中学2年の時に、曾祖父母から聞いて書いた体験記録と、昭和館で見た展示とを思い出してみました。昭和館にあった戦争の時代の日が、曾祖父母達の時代の人々が生きていた、「本当の毎日」だったのだと思いました。

私の曾祖父は、「戦争のことは思い出したくない、忘れたい。」と何も語らなかったそうです。子供である祖父に聞いても殆ど何も聞いていないとのことでした。そういう人もたくさんいる中で、戦争を記録に残して伝えること、残された貴重な記録から学ぶことはとても大切なことだと思いました。

私達は、八月十五日の終戦の日が、他の国にとっては、日本による占領が終わった記念日である事も忘れてはならないと思います。世界が平和であり続けるための方法という見方で、私はこれからを考えていきたいなと思いました。

6 第11回昭和館中学生・高校生ポスターコンクール入賞作品の紹介

<入賞作品（優秀賞以上）>



最優秀賞  
あいち造形デザイン専門学校高等課程  
村尾 梨佳  
紙芝居



優秀賞  
あいち造形デザイン専門学校高等課程  
城山 美空  
学童疎開



優秀賞  
富山第一高等学校  
古木 美紅  
配給の風景



優秀賞  
長野県松本深志高等学校  
児玉 優歩  
黒塗りの教科書と



優秀賞  
板橋区立板橋第五中学校  
小西 啓子  
戦後の子供の遊び



優秀賞  
広島県立尾道東高等学校  
小保 佑月  
昭和の子供の遊び



優秀賞  
浦和麗明高等学校  
金子 千華  
第二次世界大戦、東京大空襲



優秀賞  
浦和麗明高等学校  
小川 優香  
親と子

## 7 施設概要

### 設立趣旨

昭和館は、戦没者遺族に対する援護施策の一環として、戦没者遺族をはじめとする国民が経験した戦中・戦後の国民生活上の労苦に係る歴史的資料・情報を収集、保存、展示し、後世代の人々にその労苦を知る機会を提供することを目的として設立された。

具体的には、当時の国民生活の姿を伝える実物資料の展示事業、図書・文献及び映像・音響資料の閲覧事業並びに内外の資料館の概要等に関する関連情報提供事業等の諸事業を進めることにより、戦中・戦後の国民生活上の労苦を様々な視点から総合的に伝えていくこととしている。

### 昭和館建設の経緯

昭和54年に、財団法人日本遺族会から、戦没者遺児への慰藉のため、「戦没者遺児記念館（仮称）」を建設して欲しいという要望が、当時の橋本厚生大臣に提出された。

これを契機として、戦後に生まれた世代が国民の過半数を占め、今日の繁栄の礎となった戦没者の遺族をはじめとする国民が経験した戦中・戦後の国民生活上の労苦を後世代に伝えることを目的に、戦没者遺族に対する援護施策の一環として、各界有識者の参加のもとに、「戦没者遺児記念館（仮称）」建設の検討が進められた。

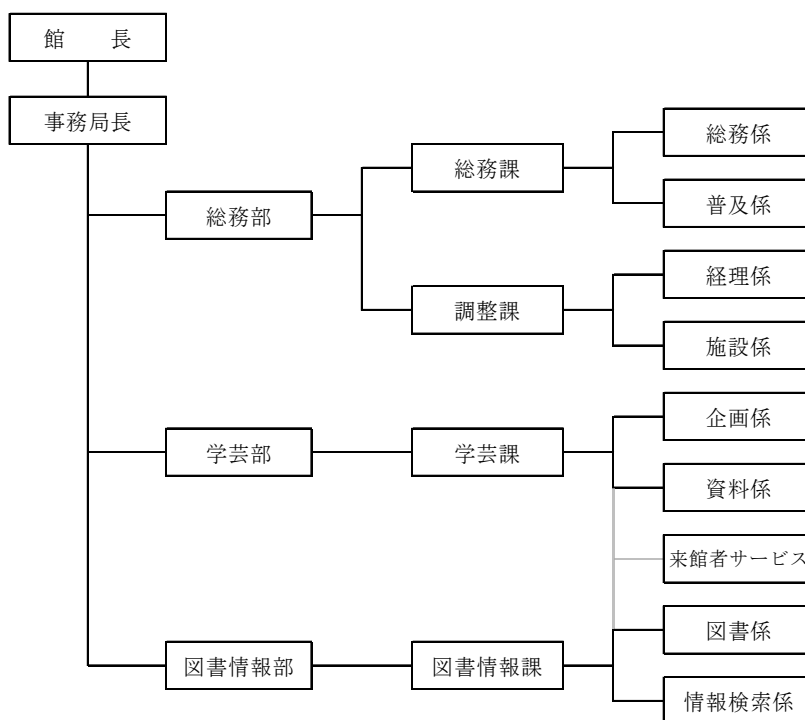
平成5年に、「戦没者追悼平和祈念館（仮称）」として厚生省（当時）予算に建設費が計上された。その後、有識者等からさまざまなご意見をいただき、平成10年12月末に竣工した。館の名称は、「昭和館」とされ、平成11年3月末に開館した。

なお、一般財団法人日本遺族会が厚生労働省から委託を受け、館の運営に当たっている。

## 施設

面積	敷地面積	2,138㎡			
	延床面積	8,514.11㎡			
構造種別	S造（鉄骨造）一部SRC造（鉄骨鉄筋コンクリート造）				
階数	床面積（㎡）	主な用途	収容人員（人）	避難施設	備考
R階	206.04	機械室		避難階段	
7階	792.05	常設展示室（入口）	135	避難階段	戦中の国民生活
6階	795.37	常設展示室（出口）	142	避難階段	戦後の国民生活
5階	797.61	映像・音響室	63	避難階段	情報検索
4階	798.03	図書室 書庫	52	避難階段	図書閲覧 図書収蔵庫
3階	799.6	研修室・会議室	120	避難階段	特別企画展時は会場に使用
2階	718.61	広場		避難階	（臨時出入口）
1階	1288.42	資料公開コーナー エントランスロビー ニュースシアター 受付・総合案内・事務室	69 34	避難階	昭和館出入口
B1階	1011.42	資料収蔵庫 防災センター 機械式駐車場		避難階段	実物・図書資料収蔵（低温管理）
B2階	1306.96	機械室 機械式駐車場		避難階段	
合計	8514.11		615		

## 組織



## 8 平成30年度寄贈者御芳名

本年度に資料をご寄贈くださいました方のお名前を記してお礼といたします。

実物資料寄贈者

[団体]

都道府県	寄贈者名
東京都	中央区 区民部地域振興課
埼玉県	キムラセンイ株式会社

(都道府県別、順不同、敬称略)

都道府県	寄贈者名
群馬県	一般財団法人 群馬県遺族の会
〃	坂上遺族会
〃	双松寺

実物資料寄贈者

[個人]

都道府県	寄贈者名
宮城県	松尾茂雄
山形県	武田昭栄
東京都	阿部真佐恵
〃	石井正男
〃	石丸光子
〃	磯貝朱実
〃	市川玲子
〃	入内島健
〃	宇佐美昇三
〃	大木眞理
〃	大湯幸夫
〃	岡田安代
〃	岡野輝子
〃	小沼辰男
〃	加藤恭子
〃	加藤令子
〃	加藤種義
〃	金井駿一
〃	金子税子
〃	金子かづ子
〃	川原マサ子
〃	菊池一江
〃	北野充繪
〃	栗原薫
〃	郷農彬子
〃	小林秀寿
〃	駒崎進作
〃	齊藤和子
〃	佐野明美
〃	澤田満子
〃	篠原昭介
〃	白石弘巳
〃	高久祐一
〃	高橋和子
〃	高峰章
〃	寺田格郎
〃	寺田近雄
〃	南條和世
〃	新村登喜江
〃	西堀明男
〃	藤岡美智子

都道府県	寄贈者名
東京都	船曳幸子
〃	牧野正道
〃	増子眞裕美
〃	松本和子
〃	丸山理恵子
〃	村島秀雄
〃	持田美枝子
〃	森田千秋
〃	諸岡禮子
〃	安岡由佳梨
〃	安福美恵子
〃	吉田育子
〃	吉野幸裕
〃	渡辺洋子
神奈川県	石井寿恵男
〃	伊藤富美子
〃	上村久美子
〃	熊沢孝子
〃	下條カネ
〃	千賀明雄
〃	高尾桂子
〃	高橋千世子
〃	津田典子
〃	角井桂子
〃	土肥原洋美
〃	富浜利郎
〃	外山航輝
〃	野口英行
〃	福原美緒
〃	吉野瑞男
千葉県	大河原倫子
〃	蒲池廉一郎
〃	木村仁
〃	久保智子
〃	小西博
〃	小林和子
〃	齊藤織女
〃	鈴木真弓
〃	関口貴
〃	福田敏子
埼玉県	荒谷兼司

(都道府県別、順不同、敬称略)

都道府県	寄贈者名
埼玉県	大森洋子
〃	片山芳二
〃	佐藤喜之
〃	末吉哲
〃	滝吉奈緒美
〃	林浩史
〃	淵上博義
〃	矢島英美
静岡県	宇留野知子
〃	小澤徳次
〃	久保山勝朗
群馬県	内田米
〃	川浦幸子
〃	川村眞三
〃	坂本千夏子
〃	須賀宏江
〃	田部井ナヲ
〃	富沢幸蔵
〃	林正巳
〃	日向洋子
〃	廣羽幸子
〃	堀口淑子
〃	矢島衣子
長野県	斉藤一二
愛知県	服部ちづ
〃	森本宏
滋賀県	北原洋一
京都府	梶昭二
〃	こうの史代
大阪府	角田保子
〃	肥塚勇三
〃	高須賀加代子
〃	橋場孝仁
兵庫県	村田紀美代
〃	山本康裕
広島県	中尾裕子
山口県	小林清
香川県	岡井幹男
〃	横井昭子
愛媛県	井原瑞江
福岡県	高木計宝



図書資料寄贈者

[団体]

都道府県	寄贈者名
北海道	公益財団法人 アイヌ民族文化財団
"	釧路市立博物館
"	北海道博物館
"	北海道立帯広美術館
青森県	青森県近代文学館
"	青森県立郷土館
宮城県	瑞巖寺
"	仙台市歴史民俗資料館
"	東北歴史博物館
山形県	米沢市上杉博物館
福島県	一般財団法人 福島県遺族会
"	伊達市保原歴史文化資料館
栃木県	大田原市なす風土記の丘湯津上資料館
群馬県	坂上遺族会
"	双松寺
埼玉県	川越市立博物館
"	埼玉県平和資料館
"	所沢市生涯学習推進センター
"	日本大学企画広報部広報課
千葉県	鎌ヶ谷市郷土資料館
"	佐倉市総務部行政管理課市史編さん担当
"	城西国際大学水田美術館
"	野田市郷土博物館
"	船橋市郷土資料館
"	松戸市教育委員会
"	歴史認識問題研究会
東京都	板橋区教育委員会生涯学習課文化財係
"	板橋区立郷土資料館
"	大田区立郷土博物館
"	大妻女子大学博物館
"	GAS MUSEUM がす資料館
"	株式会社クマヒラ
"	北区飛鳥山博物館
"	宮内庁書陵部
"	久米美術館
"	暮しの手帖社
"	公益財団法人 海原会
"	公益財団法人 多摩市文化振興財団 パルテノン多摩
"	國學院大學研究開発推進センター渋谷学研究会
"	公益財団法人 水交会
"	公益財団法人政治経済研究所 東京大空襲・戦災資料センター
"	産経新聞社編集局運動部
"	一般社団法人 日本郷友連盟
"	しょうけい館 戦傷病者史料館
"	城北生活史研究会
"	昭和女子大学光葉博物館
"	杉並区立郷土博物館分館
"	すみだ郷土文化資料館
"	世田谷区立郷土資料館
"	台東区教育委員会
"	たばこと塩の博物館
"	タイムドーム明石（中央区立郷土天文館）
"	中央史学会

(都道府県別、順不同、敬称略)

都道府県	寄贈者名
東京都	調布市郷土博物館
"	千代田区立千代田図書館
"	公益財団法人 通信文化協会
"	東京家政学院生活文化博物館
"	東京都公文書館
"	豊島区立郷土資料館
"	日本カメラ博物館 JCIIフォトサロン
"	公益社団法人 日本写真家協会
"	物流博物館
"	文京ふるさと歴史館
"	防衛省防衛研究所戦史研究センター史料室
"	法政大学史センター
"	町田市立自由民権資料館
"	満鉄会
"	港区総務部総務課人権・男女平等参画係
"	明治学院大学国際平和研究所
"	明治大学史資料センター
"	わだつみのこえ記念館
神奈川県	JICA 海外移住資料館
"	あつぎ郷土博物館
"	大磯町郷土資料館
"	小田原城天守閣
"	神奈川近代文学館
"	川崎市民ミュージアム
"	公益財団法人 馬事文化財団 馬の博物館
"	戦時下の小田原地方を記録する会
"	平塚市博物館
"	明治大学平和教育登戸研究所資料館
"	横須賀市総務部総務課
"	横浜市史資料室
"	横浜都市発展記念館
"	横浜みなと博物館
富山県	富山市郷土博物館
石川県	石川県立歴史博物館
福井県	福井県立若狭歴史博物館
長野県	重要文化財旧開智学校校舎
"	松本市立博物館
静岡県	島田市博物館
"	焼津市歴史民俗資料館
愛知県	安城市歴史博物館
"	岡崎市美術館
"	瀬戸蔵ミュージアム
"	NPO法人 体育とスポーツの図書館
"	名古屋市市政資料館
"	名古屋市博物館
三重県	四日市市立博物館
滋賀県	滋賀県平和祈念館
京都府	立命館大学国際平和ミュージアム
大阪府	大阪歴史博物館
"	外邦図研究グループ
兵庫県	明石市立文化博物館
和歌山県	和歌山県立紀伊風土記の丘
"	和歌山市立博物館

図書資料寄贈者

[団体]

都道府県	寄贈者名
島根県	松江歴史館
岡山県	岡山シティミュージアム 岡山空襲展示室
〃	津山郷土博物館
広島県	呉市海事歴史科学館
〃	呉市文化スポーツ部文化振興課市史編さんグループ
徳島県	徳島県立文書館
愛媛県	愛媛県歴史文化博物館
〃	坂の上の雲ミュージアム
福岡県	北九州市立いのちのたび博物館 (自然史・歴史博物館)

(都道府県別、順不同、敬称略)

都道府県	寄贈者名
福岡県	福岡市美術館
佐賀県	有田町歴史民俗資料館
長崎県	佐世保市遺族会
大分県	大分市歴史資料館
宮崎県	みやざき歴史文化館
沖縄県	沖縄県文化振興会公文書管理課
〃	公益財団法人 対馬丸記念会 対馬丸記念館
〃	ひめゆり平和祈念資料館

図書資料寄贈者

[個人]

都道府県	寄贈者名
北海道	谷 暎 子
山形県	武 田 昭 栄
福島県	諸 原 孝 夫
〃	山 本 佑 一 郎
茨城県	吉 久 保 満 男
群馬県	飯 島 栄 一 郎
〃	田 部 井 ナヲ
〃	日 向 洋 子
〃	山 田 勉
埼玉県	坂 東 隆 秀
〃	本 多 英 男
〃	村 井 憲 一
〃	吉 岡 正 之
千葉県	大 河 原 倫 子
〃	蒲 池 廉 一 郎
〃	小 西 博
〃	関 口 貴
〃	福 田 敏 子
東京都	阿 部 章 子
〃	荒 木 博
〃	池 田 俊 明
〃	市 川 玲 子
〃	入 内 島 健
〃	江 波 戸 昭
〃	大 口 佳 子
〃	大 野 益 弘
〃	加 藤 裕
〃	加 藤 令 子
〃	金 井 駿 一
〃	菊 池 一 江
〃	古 関 登 代 子
〃	齊 藤 和 子
〃	櫻 井 宏
〃	佐 野 明 美
〃	篠 原 昭 介

(都道府県別、順不同、敬称略)

都道府県	寄贈者名
東京都	白 石 弘 巳
〃	杉 山 由 紀
〃	高 橋 和 子
〃	武 田 京 子
〃	田 村 弘
〃	角 田 幸 枝
〃	蓮 田 伸 子
〃	八 反 田 耕 子
〃	原 浩 司
〃	原 剛
〃	平 本 温 彦
〃	藤 岡 美 智 子
〃	船 曳 幸 子
〃	村 島 秀 雄
〃	持 田 美 枝 子
〃	森 下 は る み
〃	森 田 千 秋
〃	師 岡 文 男
〃	諸 岡 禮 子
〃	安 岡 由 佳 梨
〃	山 口 和 子
〃	山 本 ま り 子
〃	横 藤 田 弘
〃	横 山 讓 二
〃	吉 野 幸 裕
〃	渡 辺 洋 子
神奈川県	伊 吹 克 己
〃	栗 原 利 佳 子
〃	千 賀 明 雄
〃	高 橋 千 世 子
〃	津 田 典 子
〃	角 井 桂 子
〃	富 浜 利 郎
〃	中 澤 信 子
〃	新 見 睦

都道府県	寄贈者名
神奈川県	野 口 英 行
〃	藤 川 琢 馬
新潟県	茨 木 智 志
〃	原 田 健 一
石川県	土 山 正 雄
長野県	坂 口 浩
〃	竹 村 淳
〃	渡 辺 惣 伸
静岡県	宇 留 野 知 子
〃	久 保 山 勝 朗
愛知県	小 林 光 昭
〃	田 中 清 允
〃	森 本 宏
三重県	河 合 政 年
〃	芝 武 宏
京都府	上 田 文 男
〃	梶 昭 二
大阪府	土 田 時 雄
〃	福 山 琢 磨
〃	牧 野 邦 昭
兵庫県	奥 村 元 子
〃	村 上 し ま 子
奈良県	三 浦 康 代
鳥取県	菅 谷 雅 彦
〃	細 田 京 香
広島県	中 尾 怜 子
香川県	大 岡 正 俊
〃	喜 田 清
〃	横 井 昭 子
愛媛県	井 原 瑞 江
福岡県	穴 澤 幸 人
〃	市 原 猛 志
長崎県	山 口 展 子
〃	山 口 展 子

映像・音響資料寄贈者

〔個人〕

都道府県	寄贈者名
宮城県	松尾茂雄
群馬県	須賀宏江
〃	日向洋子
〃	矢島衣子
埼玉県	末吉哲
〃	村井憲一
東京都	阿部真佐恵
〃	石丸光子
〃	市川玲子
〃	岡野輝子
〃	鹿島敏男
〃	加藤恭子
〃	加藤種義
〃	金井駿一
〃	菊池一江
〃	古関登代子
〃	小林真喜子
〃	佐々木軍衛
〃	佐野明美
〃	篠原昭介

都道府県	寄贈者名
東京都	白石弘巳
〃	高橋和子
〃	高橋透
〃	田村弘
〃	寺田格郎
〃	西堀明男
〃	藤岡美智子
〃	藤島静子
〃	船曳幸子
〃	三浦和子
〃	持田美枝子
〃	森田千秋
〃	師岡文男
〃	諸岡禮子
〃	渡辺洋子
神奈川県	上村久美子
〃	高橋千世子
〃	富浜利郎
神奈川県	松尾公就
千葉県	大河原倫子

(都道府県別、順不同、敬称略)

都道府県	寄贈者名
千葉県	小野善三郎
〃	齊藤織女
〃	関口貴
〃	福田敏子
石川県	岡西順子
長野県	坂口浩
静岡県	宇留野知子
〃	久保山勝朗
京都府	芦田孝一郎
大阪府	川合謙治
兵庫県	村田紀美代
広島県	中尾怜子
香川県	大岡正俊
愛媛県	井原瑞江
長崎県	山口展子
鹿児島県	Scott Heinley
アメリカ合衆国	Edward Herrington
〃	Judy Kell

# 昭和館館報 第20号 (平成30年度)

令和元年7月発行

編集発行 昭和館

〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-1

電話03 (3222) 2577